

<一般部門 エントリー>
2025.05.26 (mon)

NPO法人 ワークライフバランス北陸
(協働のまちづくりチャレンジ事業・審査会資料)

**「避難所シミュレーション」できっかけづくり、
町会のコミュニティを活性化する試み。**



1. 団体について

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P01

団体名	特定非営利活動法人ワークライフバランス北陸
メンバー	30名／WLB認定コンサルタントを中心に多様な人が集う。
設立の目的	①WLB（ワークライフバランス）の啓発と普及 ②笑顔のリレー事業 ③会員のスキルアップ ④まちづくり・ひとづくりの種まき
活動概要	研修・セミナーの実施／上記に関連するイベントの企画・運営
応募した理由	目的④の機会提供と達成／町会のコミュニティの劣化に危機感

2.現状の課題と解決策

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P02

特定非営利
活動法人  ワークライフバランス北陸

私たちが考える
地域の課題

＜町会の防災についての課題＞

- 1.防災訓練のマンネリ化
- 2.防災意識に温度差がある
- 3.自助・共助・公助の理解不足

＜町会のコミュニティについての課題＞

- 1.希薄化・高齢化が進行
- 2.無関心と個人主義が横行
- 3.デジタル・コミュニケーションの弊害



解決するために
考えたこと

「コミュニケーション不足 = コミュニティの劣化」が始まっています。
この事業は、町会で防災についての話し合いをすることによって、
知らず知らずのうちにコミュニケーションが活性化され、「防災」を
旗印に、ひとが集い・対話するコミュニティが再構築されることを、
解決策と考えました。

3-01.企画の概要（ねらい・効果など）

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P03

① <ねらい・コンセプト>

特定非営利
活動法人  ワークライフバランス北陸

- ねらい01 ・防災や避難所のシミュレーション
- ねらい02 ・町会内のコミュニケーションの機会提供
- コンセプト 「避難所や防災」を切り口に、日本人が古来より持つ「助け合い・優しい心」を思い出し、改めて町のコミュニティの大切さを市民に実感してもらう。

② <事業効果>

- 効果A ○防災訓練/避難訓練の見直し○避難経路のシミュレーション
○自主防災組織の再検討○備蓄品の点検○避難所の運営シミュレーション
- 効果B ○コミュニケーションの促進○コミュニティの活性化○リーダーシップ
○ファシリテーション○チームビルディング○コンフリクトマネジメント
※コンフリクトマネジメント（対立や衝突の管理）

3-02.企画の概要（実施方法・スケジュールなど）

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P04

③ <実施方法>

- 予定日時／毎月1～2回
- 予定場所／公民館やコミュニティスペースなど
- 実施形態／セミナー＋参加者同士の対話
- スケジュール案



事業内容・準備	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	交流会				中間報告			成果発表会		
実施	看護大生	浅野町	松島町	福井 越前市	菊川町／新神田／シンママ 清川町／材木町連／カネマサ他					
告知		○		○		○				
振り返り	○	○	○	○	○	○	○			

3-03.企画の概要（スケジュール詳細）

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P05

●スケジュール案（詳細）

特定非営利
活動法人  ワークライフバランス北陸

4/22 10:00	県立看護大学	テストラン・at県立看護大学セミナールーム
5/25 14:00	福井市内・某企業	テストラン・atタッセイ福井ショールーム
6/7 14:00	シンママ応援団	テストラン・at石川県女性センター
6/11 15:00	県立看護大学	(以降本格始動) コミュニケーション実習の一環として・at県立看護大学
6/15 午前中	浅野町校下婦人防火クラブ	例会 + コミュニケーション勉強会の一環として・at場所未定
6/28 17:00	WLB北陸+町会関係者	チームビルディング + 避難所シミュレーション・at由屋るる犀々
7/3 13:00	高岡中学校職場体験	リーダーシップ + 避難所シミュレーション・at由屋るる犀々
11~12月	WLB北陸+清川町会	救命救急訓練 + 避難所シミュレーション・at由屋るる犀々

(予定) ●国際ペット専門学校 ●並木町会 ●菊川地区町会連合町会 ●新神田校下少年連盟
●松島地区企業振興協議会 ●福井県越前市町会 ●金沢市内町会連合会 (62町会連合会)

4-01. 今後の展望について

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P06

特定非営利
活動法人  ワークライフバランス北陸

事業と位置づけ

私たちの活動は、①ワークライフバランスの普及 ②親子孫までの笑顔のリレー ③会員のマインドとスキルアップ ④**まちづくり・ひとづくりの種まき**、です。これら4つを柱に北陸三県を中心に活動おこなっています。今回は④番の「まちづくり・ひとづくりの種まき」に焦点を当てます。町会のみなさんのコミュニケーションのきっかけとなることを期待して、「避難所シミュレーション」という道具を持ち込み、対話の機会を提供します。

来年度以降の活動と展開

3年間の計画で、1年目の今年度を「創成期」、次年度を「拡大期」そして、3年目を「発展期」として展開予定です。その中で子どもバージョン、英語バージョン、ショートバージョンなど改訂版を制作、活動範囲は北陸三県、全国も視野に入れています。また、危機管理課さんの出前講座に対応可能な「出前バージョン」も作ります。以上のような活動を通して、「災害に強いまちづくり・コミュニティに関心を持つひとづくり」の種まきをしていきたいと思ひます。

4-02. 防災のことを、なんでうちがするのか？

2025年度 協働のまちづくりチャレンジ事業
審査会 資料

P07

特定非営利
活動法人  ワークライフバランス北陸

0.
まちづくり・ひとづくり
の種まきに
焦点を当てます。

1.
課題→地域の
コミュニティが
薄れつつある。

2.
「避難所・防災」を
テーマに地域で
話し合う機会を提供
できないか？

3.
当法人には防災士
数名・赤十字社職員、
看護大講師がいる。

4.
関心が高い「防災」を
切り口に
コミュニティを醸成
できないか？

5.
コミュニティの再活性化
=
まちづくり・ひとづくり
の種まき

6.
地域で避難所
シミュレーションを
実施する。



ご清聴ありがとうございました。



特定非営利活動法人  ワークライフバランス北陸